



着任のごあいさつ

日頃より皆様方には当院の運営に格別のご高配を賜り誠にありがとうございます。

令和6年4月1日付で広島西医療センターより赴任いたしました山崎貴元(やまさき たかゆき)と申します。私は岡山県出身で、岡山県、広島県、島根県の7施設で勤務し、この度初めて愛媛県での勤務となります。事務部長としての勤務も初めてではありますが、職員の皆様と協力して病院運営に尽力したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

さて、赴任してまず感じたことは敷地が広大で、緑豊かで素晴らしい環境であること、また、病棟本館は更新整備されておりますが、外来管理診療棟は築51年と老朽化が激しいうえ病棟と約250m離れており、職員、患者さん、ご家族の皆さんにご不便をおかけしているところ です。

病院としては早期に外来管理診療棟を更新することを目指しておりますので、そのためには病院

経営の黒字化は必須です。まずはムダ・ムリ・ムラがないか検証して新たな試みに挑戦することが重要だと考えています。

最後になりますが、病院を取り巻く環境はより一層厳しいものになりますが、新型コロナウイルス感染症との共存の中で、病院経営を安定させることが自身に課せられた責務と考えております。阿部院長の下職員の皆様と一緒に愛媛医療センターの更なる発展を目指して努力して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



事務部長 山崎 貴元

にゅー

ぶえいす

ドクターズ

循環器内科医長
みやべ りょう
宮部 亮

この度、愛媛医療センターの一員に加えていただきました宮部と申します。

私は平成27年に愛媛大学医学部を卒業し、2年間の臨床研修を経て、急性心筋梗塞に対する緊急冠動脈インターベンションなどの、急性期循環器診療に感銘を受け、循環器内科を志すことになり、以後修練を積んでまいりました。

前年度までは、愛媛大学医学部循環器・呼吸器・腎高血圧内科学講座にて、循環器

疾患全般への学びと理解を深めることに尽力しておりました。

当院において、微力ながら、今まで学んだものを皆様に還元できればと思いますのでよろしくお願いいたします。



消化器内科医長
おくだいら ともなり
奥平 知成

この度、2024年4月に愛媛医療センターに赴任いたしました奥平知成です。前任地は県立今治病院で、専門領域は消化器内科になります。

昨年までは、瀬戸内海を横目に196号線をひた走り、造船所が見えるとようやく勤務先へ到着でしたが、この4月からは、麦畑に囲まれた県道を朝陽に向かいながら低速でのんびり走った終点が勤務先と、いずれにしても、それなりの通勤時間の日々です。

さて、この時期になると気になるのが本屋大賞です。2024年度は「成瀬は天下を取りに行く」が大賞となりましたが、個人的に気になったのは「スピノザの診察室」です。表題の通り、医療現場が舞台の物語ですが、スーパー外科医やスーパー救急医が主人公ではなく、市井で働く一人の消化器内科医の日常が一定のリアリティーを持って描かれており、読むにつれ、一消化器内

科医として不思議な感覚に囚われました。

消化器内科では、食道、胃、十二指腸、小腸、大腸から肝臓、胆嚢、膵臓といった多岐に渡る領域を担当します。専門分化が進む現在では、各領域へ細分化され、高度な専門医療を必要とする消化器疾患は大病院やがんセンターなどで治療されますが、より一般的な消化器疾患や高次医療機関で治療を経た方のフォローアップなどは当院消化器内科の役割の一つと考えます。

今後とも東温・松山東部地域において、内視鏡検査をはじめとした日常診療や救急医療を通じて、高度医療の一步手前の専門治療や、消化器疾患の早期発見などに微力ながら尽力できればと思っております。まだまだ、若輩ではございますが、よろしくお願いいたします。



整形外科医長

いしかわ まさふみ
石川 真史

今年の4月に市立大洲病院から転勤してきました、整形外科の石川真史です。主に脱臼や骨折等の外傷を中心に診療に当たらせていただいております。宮本先生を中心に一致団結して愛媛医療センターを盛り上げていけるよう頑張っております。

私生活では、ウルトラマンを見て宇宙拳法に興味を持った子どもたちが空手を習い始めて2年弱経ちました。当初はへなちょこであったパンチやキックを笑いながら受け止めておりましたが、今では強烈な回し蹴りが飛んでくるようになり、当たると痛いので必死で避けております。子どもたちの成長が早すぎて、できる限り一緒にいられる時間を大切にしたいものだなあと感じております。

私は愛媛大学整形外科サッカー部に所属してお

り、年に一度、日本整形外科学会にて開催されるサッカー大会に参加しております。中四国ブロックの予選を勝ち抜いた1チームが本戦へと進むことができる大会です。いつまでも若手の気持ちで毎年参加しておりますが、最近は参加する度に肉離れを起こすようになり、体の衰えを実感すると共に、全力疾走できない自分に悲壮感を感じるようになりました(泣)。

体は決して若くはない私ではございますが、初心を忘れることなく、若手の気持ちで、患者さんに寄り添った診療をこれからも続けていきたいと思っております。皆様これからもどうぞよろしく願いいたします。



整形外科医長

あおき かずのぶ
青木 一将

初めまして、2024年4月より赴任いたしました青木一将と申します。出身は愛媛県の松山市です。2015年より愛媛大学整形外科へ入局し整形外科医として勤務しており、以前は市立宇和島病院、愛媛大学附属病院、済生会西条病院等で勤務しておりました。

整形外科医としては外傷を主に見させていただいております。救急医療含めて少しでも地域医療に貢

献できたらと考えております。また、体制が変わって慣れるまでご迷惑をおかけすることが多々あるかとは思いますがご指導・ご鞭撻のほど何卒宜しく願いいたします。



地域の輪



愛媛十全医療学院附属病院

繋がる地域医療連携

当院では関節疾患、脊椎疾患に関する手術療法とリハビリを主に行っていますが、地域包括ケアシステムのポストアキュート、サブアキュートも引き受けています。二次救急医療機関に搬送された患者さんはご高齢で身体機能、認知、意欲の障害を伴い直接退院が困難なこともあり、転院を引き受けて退院支援につなげています。愛媛医療センターからも転院相談を受けていますが今後も力ながらお手伝いできればと思っています。

最近注目しているのはサブアキュートの対応です。自宅および施設で療養されている患者さんの急変対応ですが、多くは高齢者の骨脆弱性骨折、誤嚥性肺炎、尿路感染症、脱水などです。先日、東温市消防署から搬送件数の報告がありました。COVID-19の流行に関わらず経年的に増加し令和5年には1905件の救急搬送件数でした。消防署に伺いますと高齢者の軽症救急搬送が増えているそうです。従いまして今後もサブアキュートの対応が求められるでしょう。できることは限られていますが地域の住民のために東温市医師会の先生方と連携していきますのでよろしくお願いいたします。

<地域連携室から>

昨年度は17の医療機関から132件の転入院がありました。愛媛医療センターからは愛媛大学医学

部附属病院に次いで多く17% (23件) でした。転入院患者さんの退院先は自宅50%、介護老人保健施設27%、一般病院への転院18%、特別養護老人ホーム5%、その他施設5%でした。

施設名：一般財団法人 積善会

愛媛十全医療学院附属病院

院長：鶴岡 裕昭 副院長：高原 完祐

診療時間：月～金 9:00～12:30、14:30～17:30

休診：土・日・祝日、火曜・金曜午後内科休診

住所：東温市南方561番地

電話番号：089-966-5011

アクセス：伊予鉄バス 川内線 川内下車徒歩3分

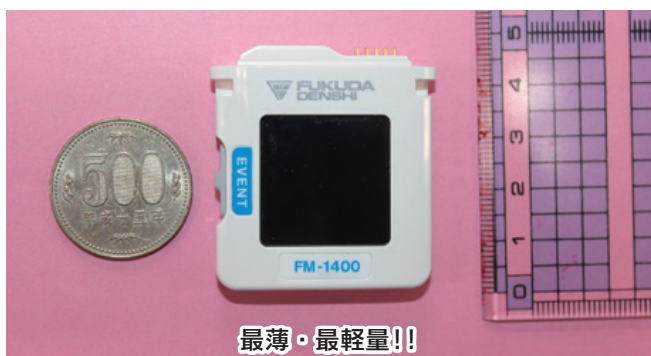


医心伝心

ホルター心電図のおはなし

『私たちは、信頼される医療の提供と働きがいのある病院を目指します。』これは当院理念ですが、その中には『患者さんの安心と満足の向上に努めます。』という項があります。

検査科では、従来の機器より患者さんの負担軽減となり、安心と満足の向上に寄与すると考えられるホルター心電図記録器を新規導入しましたのでご紹介します。



最薄・最軽量!!

ホルター心電図は、日常生活の心電図を記録し観察する検査です。動悸、息切れ、胸の痛みなどの症状があった時の心電図はどのような状態かなど、1日24時間の心電図変化を捉えることが主な目的です。検査は胸部にシール状の電極を数カ所貼り、心電図を記録するための装置(記録器)を丸1日身につけ、普段どおりの生活を送っていただきます。24時間経過したら、再度来院していただき記録器を取り外します。

今回導入した記録器は、クラス最薄・最軽量であり、従来の記録器と比較し患者さんの負担が軽減します。また従来、入浴・シャワーは控えていただきましたが、今回の記録器は防水仕様のため入浴・シャワーが可能です。汗をかきやすい方や夏場に検査する方が汗を流すことができ、不快な思いをすることが少なくなると思われます。

動悸や胸の痛みなど気になることがある方は、受診の際にお気軽に担当医にご相談ください。

臨床検査技師長 森本 直子



2年連続受賞

日本心臓リハビリテーション学会四国地方会参加報告

今年3月2日・3日に香川県高松市で開催された、日本心臓リハビリテーション学会第7回四国地方会の参加報告をさせていただきます。

公私ともにお付き合いあるKKR高松病院心臓血管病センター松元先生が会長を務められたこともあり、当院からは一般演題演者2名に加えて飯田薬剤師、谷脇栄養士と筆者がシンポジストとして参加し計5演題を発表しました。

超高齢化社会の到来による、心不全患者さんの急増は心不全パンデミックと呼ばれています。様々な原因で心疾患に罹患された患者さんが、日常生活を安定して過ごせるために心臓リハビリテーションの役割は徐々に大きくなってきており、多職種の協力により患者さんに関わる包括的心臓リハビリテーションが主流となっています。今回は医師2名・理学療法士1名・薬剤師1名・管理栄養士1名・看護師5名、総勢10名で参加しました。

また、間藤看護師が発表した、心疾患患者における抑うつ状態の関連因子に関する報告は優秀演題賞を受賞しました。昨年の当学会では矢野理学療法士が最優秀演題賞を受賞しましたので当院からは2年連続の受賞になります。

心臓リハビリテーションに関わる医療スタッフ



松元会長（後列右から3人目）と参加者
前列右から3人目が筆者

の日ごろの地道な活動を労うとともに、診療業務の中で経験した問題点・疑問点に前向きに取り組む姿勢を誇らしく思っています。

来年3月には第8回四国地方会を筆者が会長で開催する予定です。学会テーマは四国心リハー協調とその先へ—Advance through collaboration: charting the course forwardとさせていただきます。具体的な準備はこれからとなりますが、実りある学会となるように取り組んでいきたいと思っています。

特命副院長 船田 淳一

南予方面からのアクセスが便利に

東温スマートインターチェンジ開通

令和4年2月28日から、東温市田窪で工事が進められてきた、東温スマートインターチェンジが、3月23日(土)全面開通しました。

当日は中村県知事をはじめ、県内各地域選出の国会議員の先生方を来賓に迎えて、東温市中央公民館で、記念式典が開催されました。その後は会場を東温スマートインターチェンジ入り口に移して、地元重信中学校の吹奏楽部の演奏をバックに、テープカットおよびくす玉開披のセレモニーが行われ、開通を祝いました。会場には愛媛県のゆるキャラみきゃんや、東温市のゆるキャラいのとんも駆けつけ、セレモニーを盛り上げました。供用開始は、当日の午後3時からでした。

これによって、川内インター経由よりも3.4キロ短縮され、南予方面からの当院へのアクセスが便利になりました。



南予方面出入り口

インター出口を右折。次の信号を右折して、道なりに進むと、当院外来駐車場まで約5分で到着します。

なお、東温スマートインターチェンジはETC搭載車専用ですので、ご注意ください。

医療安全管理室 だより

こんなことしています

ダメ!!絶対

転倒骨折

転倒に伴う骨折防止を目指して

高齢患者さんは下肢筋力低下、バランス機能低下、関節可動域低下などにより、歩行時やトイレに移乗する際に転倒の危険性を伴います。

昨年度、入院中に転倒された患者さんの約86%が70歳以上であり、脳神経疾患、肺炎・呼吸不全、心不全などの病態による身体機能低下、心肺機能低下が背景にありました。さらに、加齢やステロイド長期投与等による骨脆弱性が問題となり、私たち医療従事者は、このような患者さんが転倒すると、骨折の可能性があることを認識しておかなければなりません。

しかし、患者さんの病状の変化(状態悪化、または回復)の過程で、「できると思っていたのにできなかった」という経験や、骨粗鬆症による二次性骨折のリスクが考慮されたアセスメントが不十分であるために、転倒後の傷害が最小限となる対策となっていないことがあります。

今年度、医療安全部会メンバー開催による研修会では全職員が骨粗鬆症と二次性骨折の基礎知識と、高齢患者さんに対する二次性骨折予防のため

の、各職種の役割について学んでいきます。

さらに患者さんの背景をふまえ、患者さんが移動された時にナースコールで知らせるセンサー類の設置など転倒しない工夫と、衝撃吸収マットの効果的な使用により、転倒しても傷害が少なくなるような対策が行えているか定期的なベッドサイドラウンドを行い、多職種の専門性が活かされた助言を行います。当院へ入院される患者さんにとって、また対応させていただく職員にとっても安全な療養環境となるよう取り組んでいきます。

医療安全管理室 高岡 佐奈美

ナースコールを

押して看護師が来るまでお待ちください



ベッドから
離れるときは
見守ります



四季燦餐 ~すいかの巻~

日ごとに暑さが感じられる季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

「暑い夏に食べたいもの」といえば、みなさんは何を思い浮かべられますか。

そうめんやざるそば、冷やし中華といった喉越しのよい麺類や、冷たいビールに枝豆、かき氷やアイスクリーム、とうもろこしなど…。今回は、子どもさんから年配の方まで年齢を問わず夏の風物詩として好まれる「すいか」についてご紹介したいと思います。

すいかの歴史は古く、紀元前5000年にはすでに南アフリカで栽培されていたそうで、日本には室町時代以降に伝わったと言われています。「西瓜(すいか)」は、“中国の西方から伝来した瓜”とされるためこの名称が付いたようです。当時は、現在のような緑の地に黒い縞があるのではなく、全身真っ黒で、気持ち悪いとあまり好まれなかったそうですが、明治に入り品種改良が進み、現在の姿形に

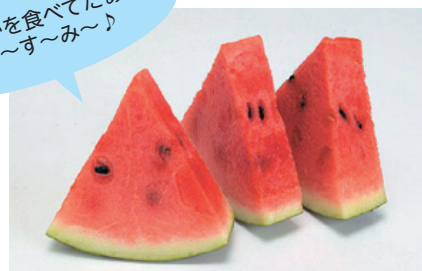
定着したとも言われています。

英名では、watermelonとも言われるように、なんと、果肉の90%以上を水分が占めています。水分には、夏の暑さでほてった身体を冷やしてくれる働きがあります。他には、シトルリンというアミノ酸が豊富に含まれており、血流を良くしてむくみを改善する効果が期待できます。また、ナトリウムの排せつを促し、高血圧予防に働いてくれるカリウム、免疫力を高める効果のあるリコピン、抗酸化作用のあるβカロテンも含まれています。(水分だけでなく、意外にビタミン・ミネラルも入っていますよ。)

暑い夏に、冷たく冷やした「すいか」はいかがですか。

※治療中の方は、主治医に確認されることをおすすめします。

「す〜いかを食べたあ〜
なつや〜す〜み〜♪」



実習後プレゼンテーションで「知の共有」!

3年生が主体的に運営・進行している『スキルアップカフェ』をご紹介します!

実習終了ごとにポートフォリオ(以下PFとします)を活かし、学生、教員へプレゼンテーションする場を『スキルアップカフェ』と呼んでいます。事前学習ははじめ、日々獲得した様々なものをPFに入れ、自らフィードバックすることで効果的な実習とします。

実習中にも、自ら日々PFをフィードバックします。知識が足りなかった自分、患者さんの気持ちを理解できなかった自分などに気づき、学習や自分のアイデアをPFに追加し、実習期間も主体的に学びます。

実習が終わってもやりっぱなしにはしません。『スキルアップカフェ』では、実習目標、自己の成長BEST3をふまえ、PFをめくりながら、どんな工夫をしたのか、成果を生み出すためにどう行動してどんな情報を得てそれをもとに何を考えたのか、その知識をどう活用や応用したのかを一人10分程度で発表します。他学生は、質問も交えながら臨場感を持って発表者の思考プロセスを理解す

ることができます。

5月の『スキルアップカフェ』後の学生からの学びや感想をご紹介します。

- ・各領域で必要な学習内容が体験談を通して理解できた。
- ・みんなの学びや頑張りを知り、刺激をもらうとともに次の実習で自身の学びに繋がりたいと思った。
- ・すでに経験した実習でも、自分とは違う学びを得ている学生もいて、より学びを深めることができた。



ちよんと言いつい放し

愛媛医療センターニュース編集委員の持ち回りでお届けします。

何年か振りに動物園へ出掛けた。

昔は動物園と云えば、檻の中でグテている動物を眺めるだけの、至ってシンプルなものだったが、北海道の旭山動物園が生態展示というのをするようになって、各地の動物園もそれを見倣って、あれこれと工夫を凝らして集客、リピーターの獲得を目指しているようだ。

砥部動物園でも、ガラス越しに泳ぐペンギンを見ることができたり、アクリルのドームの中に頭を突っ込むと、ライオンが鬚りに来てくれたり。あるいは、地上10メートルに張り渡したロープを、オランウータンが渡ったりと、大人も飽きさせない工夫が随所にしている。

一緒に行った妻は、ペンギンや象の餌やりを目を輝かせ、あちこちに置いてある、餌やり用の自販機から動物のおやつを買って、せつせと投げてやることに余念がない。特に気に入ったのは、サル山のニホンザルのようで、子どもを連れてた母ザルにしきりと餌を投げてやっていた。

「サルにおやつ買ってやるんやったら、俺にビール買ってくれ」と云えば

「おとうさんのビールより、おサルさんのおやつの方が大事よ!」

とにこやかにのたまった。

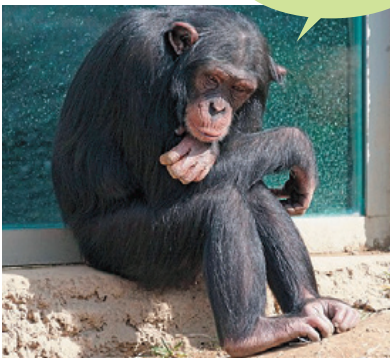
どうやら、私は、サル以下に格付けされているらしい。そこへ追い打ちをかけたのがチンパンジー。普通の二戸建て四、五軒分はあろうかという立派な檻の中に、各種遊具がしつらえられており、三食上げ膳据え膳で、退屈すれば飼育員が遊んでくれる。隣接する獣舎は冷暖房完備というセレブぶり。

たかがサルの分際で…と、切歯扼腕したところで、先様は、絶滅危惧種のおサル様。こちらは掃いて捨てるほどいる平リーマン。身分の格差、暮らしぶりの貧富の差は如何とも埋めがたい。

貧困で、貧乏で、赤貧で、極貧で、困窮している我が暮らしを顧みて「ちつと手を見る」休日になった。

樹懶菴

貧民よ、羨ましいか?



外来診療担当医表

現在、当院では外来診察室の工事を行っており、診察場所が変更となる場合があります。
診察場所について、ご不明な点があれば、医事受付窓口までお問い合わせください。

診療科	診察室	午前・午後	月	火	水	木	金
循環器内科	6診	午前	船田	船田	関谷	岩田	関谷
		午後		堀江	船田		
消化器内科	9診	午前	古田	廣岡	久保	加藤 (糖尿病専門)	久保
		午後					
	11診	午前			加藤		
	12診	午前				奥平	
呼吸器内科	10診	午前	阿部	伊東	佐藤	三好	伊東
		午後					田邊
	11診	午前		渡邊		仙波	
		午後					
	8診	午前					山本
		午後	三好				
脳神経内科	8診	午前				尾原	
	12診	午前	尾原	戸井			戸井
		午後	大八木				
整形外科	14診	午前				石川	
	15診	午前	宮本		青木	宮本	
	16診	午前	青木	玉井	石川		玉井
リハビリテーション科	15診	午前		曾我部			曾我部
消化器外科	14診	午前		鈴木	森本		
		午後					石丸
呼吸器外科	14診	午前					湯汲
小児科(神経外来)	14診	午後	菊池		桑原		菊池

専門外来(予約制)		月	火	水	木	金
心臓外科外来	16診					泉谷
ペースメーカー外来	16診				第2・4(午後)	
糖尿病外来	11診					蔭谷(第4)
フットケア外来	小児面談室				第1・3・5	
スキンケア外来	救外		第1・3(午前)			
ペインクリニック	12診			山内(午前)		
じん肺外来	16診					西村(第1午前)
アスベスト外来	14診		午後		午後	
息切れ外来	11診	渡邊(13時30分~)				
SAS外来	11診					渡邊(14時~16時)
頭痛外来	16診				永井(第2・4午前)	
神経難病	8診			橋本		
鼠径ヘルニア外来	14診		鈴木(午前)			
気胸外来	14診					湯汲(午前)

※外来受付は8時30分から11時までです。ただし、土・日・祝祭日・年末年始(12月29日~1月3日)は休診です。 2024年7月1日現在
※SAS(睡眠時無呼吸症候群)

独立行政法人国立病院機構 愛媛医療センター

〒791-0281 愛媛県東温市横河原366 TEL 089-964-2411 FAX 089-964-0251
ホームページアドレス <https://ehime.hosp.go.jp>

※弊紙の基本方針として、掲載写真については原則ご本人様の了解を頂いております。

※弊紙へのご意見ご要望ご感想は、当センター内病院新聞編集委員会(担当:小倉)までお寄せください。